

委託仕様書

1 委託業務名

「寛永行幸四百年祭」総合調整支援及び参加者管理業務

2 委託期間

契約締結の日から令和9年2月26日（金）まで

3 本仕様書の位置付け

本仕様書は、受託者が実施する内容等について最低限の基準を定めたものであり、実際の委託業務契約の締結時には、受託者の提案を踏まえ変更する場合がある。

4 委託金額の上限

17,000,000円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）

※ 本業務の実施に係る費用は、全て、上記委託金額の範囲内とする。

5 委託料の支払手続

- (1) 委託業務完了後、実行委員会において「9(2)実施報告書及び(3)業務完了届」の内容等に基づき履行を確認したうえで、受託者の請求により支払う。なお、前金払及び部分払は行わない。
- (2) 受託者は委託業務に要した経費を報告し、契約締結時の見積金額との差額（剰余）が生じる場合は、変更契約を締結し、契約金額の減額を行うこと。

6 事業概要

寛永3年（1626年）、三代将軍・徳川家光が後水尾天皇を二条城に迎え、5日間に渡って舞楽、能楽、和歌等でもてなした「寛永行幸」は、朝廷と幕府の融和、そして泰平の世の到来を告げた、江戸時代を通じて最大級とも言えるイベントであった。この行幸に向けて二条城は現在の形に改修されたほか、この行幸を通じて、のちの日本文化に多大な影響をもたらす「寛永文化」が開花することになった。（【参考】公式ウェブ：<https://kaneigyoko400.jp>）

令和8年（2026年）、「寛永行幸」から400年の節目を迎えるに当たり、行政・経済界・文化芸術団体等によるオール京都の組織である「文化庁連携プラットフォーム」のプロジェクトとして、二条城を中心とする寛永文化ゆかりの地において、寛永行幸の行事を再現するイベントを実施するとともに、寛永年間に花開いた「寛永文化」を振り返る記念祭「寛永行幸四百年祭」（以下「本祭」という。）を実施する。

7 委託業務の目的

(1) 総合調整支援業務

本祭では、象徴的事業として実施する行幸行列をはじめとして、寛永文化講座や複数のミュージアムでの展示企画、二条城での各種企画や旅行商品の造成、記念式典や能楽公演、寛永をテーマにした全国各地との連携等、多様な主体による複数の事業を並行して展

開する予定である。これらの事業については、それぞれの実施主体の独自性を尊重しつつも、全体として統一的な理念やコンセプトのもとで推進されることにより、本祭の文化的価値及び社会的波及効果を高める必要がある。

このため、本業務では、各種事業を有機的に連携させ、円滑かつ効果的な事業推進を図ることを目的として実施するものである。専門的知見を有する受託者の支援を得ながら、各事業の進捗管理や連携促進、関係者間の情報共有の円滑化に加え、協賛対応や広報発信等を含む総合的な推進支援を行い、本祭全体の実施体制の強化を図るものとする。

(2) 参加者管理業務

「寛永行幸四百年祭」の象徴的な事業として、令和8年12月6日（日）に、400年前に9,000人規模で行われた後水尾天皇の行幸行列を数百人規模で再現するイベントを実施する（現時点では330人規模での実施を想定）。行幸行列の再現に当たっては、当時の諸記録等の文献考証や時代考証、風俗考証に基づき、装束や諸道具等の内容を精緻に検証することにより、行列の規模や構成を調整し、本物志向の文化体験イベントとして企画する。

また、行列の人員は、広く一般から募集し、参加者には礼法体験を経ての参加を条件とするなど、本イベントを文化の理解を深める契機とするほか、行列には雅楽の演奏家や礼法の関係者等の文化の担い手にも参画いただき、様々な主体がともに文化の大切さを感じ・考える機会を提供する。令和7年12月から参加者の一般募集に先立つ無料の先行エントリーを開始し、令和8年2月末時点で約1,300人の方に登録いただいております。登録者には、四百年祭に関する情報を定期的にメルマガで配信している。今後、令和8年4月から、この登録者を対象に正式な参加手続きを実施する予定であり、また参加に至らなかった登録者についても、寛永に関するコアなファン層として継続的に対応していく必要がある。

さらに、行列の沿道に設置する観覧席（京都御苑内等を想定）については、その参加者に単に行列の様子を観覧いただくだけでなく、主催者が用意する寛永行幸当時の風俗を踏まえたレンタルの装束を着用し、自ら時代絵巻の登場人物として本イベントに参加いただく「装束観覧席」として企画する。この装束観覧席の参加者を行列の一般参加者と合わせて募集し、管理していく必要がある。

このため、本業務では、行幸行列再現イベントを、歴史的意義を踏まえた本祭の象徴的な事業として効果的に運営することを目的とし、今後の行列構成や装束内容の検討状況も踏まえながら、確実かつ効果的にイベント参加者の管理運営を行うとともに、先行エントリー登録者をはじめとするコアなファン層を拡大し、寛永行幸・寛永文化の歴史的・文化的価値の普及啓発を図る業務を、専門的知見を有する受託者に委託するものとする。

8 委託業務の内容

(1) 総合調整支援業務

本祭では、令和8年度において、多様な主体による複数の事業を並行して展開する予定である（別紙1「令和8年度事業計画案」参照）。受託者は、本祭の円滑な実施に向け、総合的かつ統一的な調整支援を行うものとする。本祭全体の進行状況を俯瞰的に把握し、各事業の進捗状況の整理及び可視化を行うとともに、課題やリスクの早期把握に努め、必要に応じて対応方策の提案を行う。また、各事業の内容や実施時期等を踏まえ、相互連携

や広報発信について検討を行い、本祭全体としての一体性や相乗効果が生まれるよう助言を行う。

① 横断会議の開催・運営支援

受託者は、本祭に関係する各事業担当者間の情報共有及び連携促進を目的とした横断的な会議体の運営支援を行うものとする。実行委員会と協議のうえ、進捗管理及び課題共有を目的とする定期的な横断会議（概ね月1回から2回程度）を実施し、会議の企画、議題整理、資料作成、進行補助、議事概要の作成及び関係者への共有等を行うことにより、本祭全体の円滑な推進に資するものとする。

また、横断会議の結果については、実行委員会の意思決定者に随時報告を行い、事業進捗についての指示や課題への対応を相談・確認したうえで、関係者への共有を図り、事業の円滑な進捗につなげるものとする。

② 広報・情報発信支援

本祭の認知向上及び参加促進を図るため、上記の横断会議の内容も踏まえながら、各事業の進行状況や節目に応じた効果的な情報発信のタイミングについて検討を行い、実行委員会に対し提案を行うものとする。また、発信内容の整理や広報素材の活用方法等について助言を行い、各事業の広報が本祭全体として統一感を持ったものとなるよう支援を行うものとする。

③ 協賛・寄付対応支援

本祭の趣旨に賛同する企業・団体等からの協賛・寄付の獲得を促進するため、実行委員会の方針に基づき、協賛・寄付制度の整理に関する助言、協賛・寄付候補先のリスト化支援、提案資料の作成支援等を行うものとする。

また、協賛・寄付に関する問合せ対応、関係資料の提供支援、調整業務等についても、実行委員会と連携のうえ、適切に実施するものとする。

④ 問合せ対応支援

本祭に関する外部からの問合せについて、内容に応じた適切な一次対応の支援を行うとともに、必要に応じて関係部署への連絡調整を行うなど、情報の集約及び共有の円滑化を図ることのできる機能を有した窓口を設置し、その運営に必要な体制を構築するものとする。その窓口は、公式ロゴマークの申請受付処理や、連携事業についての相談受付機能も有し、そのために必要となる手続きを提案すること。

(2) 参加者管理業務

時代行列再現イベントの参加者募集に係る応募者の個人情報等を適切に管理する体制を構築し、その応募者に対して適宜、各種情報や案内等を提供するとともに、参加者確定に向けた手続きや体制を構築し、実施すること。

また、装束観覧席の参加者募集に向けた適切なスケジュールや運営方法を、実行委員会と協議のうえ設計し、参加者募集や確定に向けた手続きや体制を構築し、実施すること。

さらに、先行エントリー登録者をはじめとする寛永に関するコアなファン層のさらなる拡大を図り、寛永行幸、寛永文化のさらなる普及啓発に努めること。なお、業務遂行に当たっては、次の点に留意すること。

- ア 令和7年度に実施した「行幸行列再現イベント企画運営業務」の概要（別紙2参照）を踏まえ、業務を実施すること。
- イ 行幸行列再現イベントの参加者募集については、以下のスケジュールで現在進行中であるため、それを踏まえ、参加者の確定に向けた実効性のあるスケジュールや手続き、円滑な運営を担保できる体制を提案すること。
- ウ 実行委員会と十分に情報共有や協議を行い、予算や諸条件を踏まえて、参加者枠を確定すること。先行抽選後、参加枠に余裕がある場合は、追加募集の実施について検討を行い、提案すること。
- エ イベント参加の条件となる礼法研修や事前研修等の諸条件を整備し、参加者に対して適切に案内できるよう、そのスケジュールや実施体制を提案すること。
- オ 装束観覧席の募集に向けては、実行委員会と十分に情報共有や協議を行ったうえで、参加者枠の確定を行い、参加者の確定に向けた実効性のあるスケジュールや手続き、円滑な運営を担保できる体制を提案すること。
- カ 行列や装束観覧席の参加者の中には、旅行会社が管理する者や協賛企業の関係者等も含まれるため、それぞれの参加状況を把握したうえで適切に管理し、それへの対応も行うこと。
- キ 参加料の振込に当たっては、実行委員会が用意する専用の口座を活用し、専任の管理者を設置するなど、適切に管理する体制を整えること。
- ク 総合調整支援業務において、本祭に関する総合的な情報を把握したうえで、令和8年3月末に締め切る先行エントリー登録者に対して配信するメルマガにおいて適宜、本祭に関する情報や寛永行幸・寛永文化についての理解を深めるための情報を提供するとともに、寛永に関するコアなファン層をさらに拡大するための有効な方法を提案し、本祭期間中や終了後における寛永の認知度向上や普及啓発につなげること。

(行列参加者募集のスケジュール)

時期	スケジュール	主な内容
令和7年12月6日～ 令和8年3月31日	先行エントリー募集	応募者には4月実施予定の「先行抽選」の参加資格を付与
令和8年1月～3月	イベント情報 随時発表	四百年祭に係る情報をメルマガ形式で配信
令和8年4月～	先行抽選 (参加者調整)	先行エントリーの応募者限定で、優先的に配役を決める抽選を実施
令和8年6月～	参加料振込	抽選当選者からの参加料の振込を開始
令和8年7月頃～	(追加募集)	行列参加者の枠に余裕がある場合は、追加募集を適宜実施
令和8年7月～11月	準備期間	礼法・作法研修、説明会等のイベント準備を実施
令和8年12月6日	行列イベント実施	

9 提出物

- (1) 広報印刷物、資料等
データ及び書面等により、作成後速やかに提出すること。
- (2) 実施報告書
本業務終了後、データ及び書面により、速やかに提出すること。
なお、別途実行委員会と協議のうえ決定した事項については、随時報告すること。
※ 報告書については事前に案を作成し、実行委員会の承認を得た後に本成果物として提出すること。
- (3) 業務完了届及び請求書
業務終了後、データ及び書面により、速やかに提出すること。
- (4) その他実行委員会が指示するもの
上記のほか、実行委員会からの指示に応じて本業務に関する資料を提出すること。

10 留意事項

- (1) 受託者は、本業務実施にあたり、関連法令等を遵守すること。
- (2) 本業務に関する内容については、本仕様書によるほか、担当職員との連絡を密にして業務に当たるものとする。
- (3) 業務の進捗状況については、定期的に共有するものとする。
- (4) 委託業務の実施に伴い第三者に与えた損害は、実行委員会の責に帰すべきものを除き、全て受託者の責任において処理すること。
- (5) 受託者は、本委託業務によって知り得た個人情報及び通常秘密とされる企業情報等を本事業の目的外に使用してはならない。これは委託期間終了後も同様とする。
- (6) 本仕様書に疑義が生じた場合は、実行委員会と協議するものとする。
- (7) 途中で事業内容を変更する場合は、実行委員会と受託者が協議のうえ、変更することとする。
- (8) 本事業の一部を再委託する場合は、あらかじめ実行委員会の承諾を得ること。

「寛永行幸四百年祭」令和8年度事業計画案

1 寛永行幸行列の再現イベント

四百年祭の象徴的な事業として、御所から二条城へ向かった後水尾天皇の壮麗な行幸行列を、文献や風俗考証に基づく本物志向の時代行列として再現するイベントを実施する。行列の参加者は、一般募集による参加者のほか、協賛企業の関係者や旅行者等により構成する。

時 期：令和8年12月6日（日）

ル ー ト：京都御苑～二条城東大手門（約3km）

内 容：行幸行列の主要シーンを、300～400人規模で再現

（中宮和子、将軍家光、後水尾天皇の3グループの行列）

楽人による雅楽演奏を再現

時代装束を着た参加者による特別観覧席を設置（200席程度）

その他：装束内容、行列構成等を、衣紋道 山科流の山科言親氏が監修

【現時点の検討内容】

（行列構成）人間：約340名、馬：15頭、牛：2頭

① 中宮和子行列（約90名）：馬2頭、牛車1輛

② 将軍家光行列（約100名）：馬7頭、牛車1輛

③ 天皇鳳輦行列（約150名）：伶人（楽人）50名、馬6頭、鳳輦1基

（行列ルート）

京都御苑（建礼門前）出発～京都御苑（中立売門）～烏丸通南下

～下長者町通西進～堀川通南下～二条城東大手門到着

行列参加の先行エントリー ※別紙チラシ参照

- 本イベントへの参加を希望するお問い合わせが数多く寄せられることから、熱量の高い関心層をしっかりと繋ぎとめるため、開催の1年前となる令和7年12月6日から、行列参加の先行エントリー（無料）を開始。
- 令和8年3月末までにエントリーをいただいた方には、4月に優先的に配役を決める抽選に参加いただけるほか、メルマガ等により四百年祭の最新情報をお届けしている。各種メディアで報道されたこともあり、令和8年2月末時点で、約1,300名の方にエントリーをいただいている。

装束観覧席（観衆役）【調整中】

- 本イベントでは、「二条城行幸図屏風」に描かれた様々な装束の観衆も再現する予定で、行列ルートに設ける「観覧席」の参加者は、主催者が用意するレンタルの装束を身につけ、観覧者自身も時代絵巻の一部になる体験として提供する。
- レンタルの装束は、主催者が用意するもの以外に、京都の和装事業者や伝統産業事業者にも協力・参画を呼び掛け、和装の推進や伝統産業の振興、技術の継承に繋げることを目指す。

装束再現プロジェクト

- 本イベントでは、山科氏の監修の下、時代考証や風俗考証を重ね、できる限り史実に基づく装束や道具類を再現するプロジェクトにも着手し、記録が残っている徳川家光が寛永行幸で使用した装束や牛車の再現に取り組む予定。
- 本プロジェクトの予算(3,000万円規模)については、その趣旨に賛同する企業等の寄付金を計上し実施する予定。また、文化人や伝統産業事業者にも本プロジェクトに幅広く参画いただき、京都の伝統文化や伝統産業の振興、技術の継承に繋げる。

2 寛永文化講座

寛永時代に花開いた文化の特質を様々なジャンルの専門家に語っていただき、多角的な視点から寛永文化の総合性や現代における意義を考えていくために、令和6年から実施。令和8年度も以下の内容で実施予定。

令和8年4月19日(日)	開幕記念講演会 講師：柴橋 大典氏、島 充氏
5月17日(日)	寛永文化講座10 講師(午前)松岡 心平氏、林 喜右衛門氏 (午後)山田 淳平氏、小野 真龍氏
6月27日(土)	寛永文化講座11 講師：笠谷 和比古氏
7月 5日(日)	寛永文化講座12 講師：フレデリック・クレインズ氏
8月 2日(日)	寛永文化講座13 講師：依田 徹氏

3 京都のミュージアムによる連携展覧会

<京都府京都文化博物館>

特別展「寛永 太平がはぐくむ美」

会 期 令和8年9月19日～11月15日

主 催 京都府、京都文化博物館、読売新聞社

内 容 寛永文化と寛永行幸を軸に、江戸時代前半に花開いた京都文化の粋を紹介

<泉屋博古館>

特別展「寛永行幸と花の都の文化びと」

会 期 令和8年9月5日～10月18日

主 催 公益財団法人 泉屋博古館

内 容 寛永行幸を振り返るとともに、そののち17世紀後半にかけて展開した優美な寛永文化に注目。身分を越えきら星の如く輩出した文化人たちの美意識と交流を紹介

<二条城障壁画 展示収蔵館>

- 会 期 春期、夏期、秋期、冬期の4期
公 開 春期：式台の間 夏期：大広間三の間
秋期：大広間一の間・二の間 冬期：黒書院一の間・二の間
内 容 二の丸御殿の障壁画は、後水尾天皇の行幸に先立つ大改修の際に、狩野探幽率いる狩野派の絵師たちによって描かれた。寛永行幸の際に使用された二の丸御殿の障壁画を年間4期にわたって公開。

※ その他、いけばな資料館、相国寺承天閣美術館、泉涌寺宝物館心照殿、茶道資料館、野村美術館、八幡市立松花堂庭園・美術館など京都各地で、寛永行幸四百年を記念して「寛永」に関する展示を予定。

4 記念事業

開幕記念フォーラム&レセプション

- 四百年祭のオープニングとして、関係者や経済界の方をお招きした記念フォーラムとレセプションを開催する。
- 四百年祭が、文化を通じて社会と世界、さらには経済の関係を編み直し、社会の基盤の再構築を目指すことを目的としていることを関係者の間で再確認し、本プロジェクトへの幅広い支援につなげる。

日 時：令和8年4月12日（日）

（第1部）フォーラム：14時30分～17時

（第2部）レセプション：17時15分～19時

会 場：ANAクラウンプラザホテル京都

内 容：（第1部）基調講演、座談（近衛忠大氏、タイモン・スクリーチ氏）

【調整中】（第2部）支援企業ご紹介、交流会

記念式典

日 時：令和8年9月5日（土）

場 所：京都国際会館（調整中）

内 容：（特別講演）講師：熊倉 功夫氏

公武融和がもたらした文化的平和の意義を、令和の時代における継承という視点からご講演いただく。

能楽公演

日 時：令和8年9月6日（日）

場 所：金剛能楽堂

内 容：寛永行幸の際、二条城において天皇と将軍が並んで能を観覧された記録に基づき、400年後の同日に奉納公演を行う。観世流の林喜右衛門氏および金剛流の金剛龍謹氏による共演を予定。

- 「二条城まつり」をはじめとする年間を通じたイベントにおいて、寛永行幸、寛永文化をテーマにした企画を展開するとともに、寛永をテーマにした案内板の設置による新たな観光導線の設定についても検討する。
- 寛永行幸行列の再現をはじめとする四百年祭のレガシーを活用した、二条城で継続的に販売できるコンテンツの造成にも積極的に取り組む。

6 各団体や全国との連携

- 四百年祭は、京都だけでなく、寛永にゆかりのある全国の自治体や団体等とも連携しながら展開を予定している。
- 一体的な広報や事業連携だけでなく、文化庁の「NEXT日本博」の活用も視野に、寛永をテーマにした長期的な地域連携を図ることにより、文化庁が推進する文化観光のモデル事業となるよう展開する。

【現在調整・検討が進んでいる連携事業】

(京都での取組)

京都市教育委員会：ジュニア京都文化観光大使20周年記念事業

京都商工会議所：京都・観光文化検定

京都府観光連盟：旅行会社、媒体社向けファミツアー

京都市観光協会：京の冬の旅

京都文化交流コンベンションビューロー：古典の日フォーラム

古文化保存協会：京都非公開文化財特別公開

学校法人八坂女紅場学園・祇園甲部歌舞会：第152回都をどり

(他府県の取組)

○ 石川県の関連事業：寛永期に着目した食と文化の魅力発信

○ 富山県高岡市の関連事業：御車山祭、工芸文化の発信

○ 全国の美術館・博物館：「これも寛永」サインを掲示

※ 民間団体のLiving History KYOTOにおいても、全国連携、全国美術館など、以下のような連携調査を実施中。

(他府県連携の取組例)

佐賀：蘇鉄の植樹【調整中】

熊本：講演会【調整中】

仙台：講演会【調整中】

東京：講演会【企画進行中】

静岡：講演会【調整中】

「寛永行幸四百年祭」 行幸行列再現イベントの

参加者募集

いよいよ先行エントリー開始!



「寛永行幸四百年祭」では、その象徴的な事業として、後水尾天皇の行幸行列を再現するイベントを、2026年12月6日(日)に開催します。本イベントでは、文化や歴史を愛し、未来へ継承しようとする皆様方とともに数百人規模の時代行列をつくり上げてまいります。

この度、2026年5月からの本エントリーに先駆けて、時代行列参加の先行エントリーを開始します。ご登録いただいた方には、優先的なイベント参加資格や「四百年祭」に関する最新情報をお届けします。是非ご登録ください。



行幸行列再現イベント

寛永3年(1626)9月6日、将軍家光に導かれ、後水尾天皇ら朝廷方が御所から二条城へ赴きました。全国の大名も盛装で付き従いそのさびやかな行列は9,000人に及んだといわれています。その主要シーンを再現する時代行列を「四百年祭」のメインイベントとして実施します。

- 時期** 2026年12月6日(日)
- ルート** 京都御苑～二条城東大手門(約3km)
- 内容** 行幸行列の主要シーンを数百人規模で再現
楽人による雅楽演奏を再現
時代装束を着た参加者による特別観覧席を設置



京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》左隻(部分)泉屋博古館

募集内容

時代行列に 参加する

数百人規模で実施する行幸行列に、当時の装束を身につけてご参加いただけます。
京都御苑から二条城までの約3kmを練り歩く、貴重な文化体験をお楽しみいただけます。
※ 行列の構成や配役、参加料等については、2026年1～3月に随時公表する予定です。

本イベントでは、「二条城行幸図屏風」(泉屋博古館蔵)に描かれた様々な装束の民衆も再現します。行列ルートに設ける「観覧席」で装束を身につけ、時代絵巻の一部になる体験をお楽しみいただけます。この「観覧席」の参加者も別途募集しますので、ご期待ください。

先行エントリー
募集期間

2025年12月6日(土)～2026年3月31日(火)

募集の流れ

時期	スケジュール	主な内容
2025年12月6日～2026年3月31日	先行エントリー募集	応募者には4月実施の「先行抽選」の参加資格を付与
2026年1月～3月	イベント情報 随時発表	行列の構成や配役、装束の内容等を段階的に発表
2026年4月	先行抽選	先行エントリーの応募者限定で優先的に配役を決める抽選を実施
2026年5月～7月	本エントリー募集	行列の一般参加者を募集
2026年8月～9月	本抽選	本エントリーの応募者を対象に、配役を決める抽選を実施(配役確定)
2026年8月～11月	準備期間	礼法・作法研修、衣装合わせ等のイベント準備を実施
2026年12月6日	行列イベント実施	いよいよ本番

応募要件

- 18歳以上の健康な方
- 礼法・作法研修・衣装合わせなどの事前行事に参加できる方
- 日本文化・歴史体験に関心のある方
- イベント当日の参加が可能な方

※ 国籍・性別・居住地域は問いません。
※ 体験を通じて歴史や文化を学び、理解を深めたい方の参加を歓迎します。

特典

先行エントリー応募者には、以下の特典をご用意しています。

- 応募者限定で実施する優先的に配役を決める先行抽選にご参加いただけます(2026年4月予定)。
- 実行委員会から発表する「四百年祭」関連の情報をいち早くメールでお届けします。

注意事項

- 先行エントリーは無料です。
- 先行エントリーのみでは、行列再現イベントの参加確定とはなりません。
2026年4月予定の先行抽選の際に、あらためて参加のご意向を確認します。
- 先行抽選で当選された方は、参加料をお支払いいただき正式な参加確定となります
(参加料等の詳細情報は2026年4月までに公表する予定です)。
- 行列の配役、装束の内容等は、主催者の判断により調整します。

登録方法

1



先行エントリー
募集ページ



寛永行幸四百年祭公式サイト内の
先行エントリー募集ページ
(<https://kaneigyoko400.jp/general/>)へアクセス

2



「先行エントリー(無料)」
ボタンからフォームに入力

3



内容確認後、
登録完了メールが届きます。

お問い合わせ

寛永行幸四百年祭実行委員会

entry@kaneigyoko400.jp

絵:「二条城行幸図屏風」部分 江戸時代(京都市指定文化財 泉屋博古館蔵)

主催 寛永行幸四百年祭実行委員会

(文化庁連携プラットフォーム内)

<https://kaneigyoko400.jp/>

共催 Living History KYOTO

最新情報は公式HP・SNSでチェック!



公式HP



FACEBOOK



Instagram



X



本イベントは、文化庁 令和7年度「文化資源活用
事業費補助金(全国各地の魅力ある文化財活用
推進事業)」の補助を受けて実施しています。

令和7年度「寛永行幸四百年祭」行幸行列再現イベント企画運営業務の概要

1 イベント全体概要

(1) イベントの趣旨と目的

寛永3年（1626）9月6日、将軍家光に導かれ、後水尾天皇ら朝廷方が御所から二条城へ赴きました。将軍には全国の大名も盛装で付き従い、そのきらびやかな行列は9,000人に及んだといわれています。

その行列の主要シーンを再現する時代行列イベントを「四百年祭」のメインイベントとして実施します。

(2) 開催日時

開催日：令和8年12月6日（日）

時 間：調整中

（現時点の想定）午前中 ：装束着付け、各種スタンバイ

出発式 ：12時頃

行列行進：13時頃～15時頃

到着式 ：15時半頃

(3) 実施場所等

出発地：京都御苑 建礼門付近（出発式会場）

行進ルート：京都御苑 → 烏丸通 → 下長者町通 → 堀川通 → 二条城 東大手門

到着地：元離宮二条城（到着式会場）

距 離：約2～3km

参加人数：300～400名程度 ※各種時代装束を着用

来場者想定：10,000人程度

雨天時の対応：雨天決行。荒天時は中止（判断基準は今後検討）。

(4) 運営体制

主催：寛永行幸四百年祭実行委員会（文化庁連携プラットフォーム内）

共催：Living History KYOTO

2 イベント運営計画

(1) 行列構成・装束内容

- 行幸行列の再現に当たっては、当時の諸記録等の文献考証や時代考証、風俗考証に基づき、装束や諸道具、動物等の内容を精緻に検証することにより、行列の規模や構成、装束内容を調整し、本物志向の文化体験イベントとして計画する。
- 山科言親氏（衣紋道山科流若宗家）と津田大輔氏（甲南大学大学院日本文学研究科修士課程修了）が文化監修を行い、「東武実録」などの文献資料及び「二条城行幸図

屏風」などの絵画資料等に基づき、当時の様子の忠実な再現に取り組んでいる。行列の構成は、中宮和子行列、将軍家光行列、後水尾天皇鳳輦行列の3つを主軸に構成され、合計約330名の規模で再現することを計画。

- 装束については、寛永行幸の特徴の一つである、天皇・将軍が特別に許された「一日晴」の豪華な装束を再現する。「一日晴」とは、特別な行事や儀式、行幸の際に、通常は身分や年齢で決まっている装束の色や織物について、この日だけはそれぞれが競って華麗なものを着用することが許されたもの。下襲と表袴の生地を監修者が選定しており、特に下襲には「輪無唐草文」や「藻勝見文」など、表袴には「萌黄紋窠霰唐織物」などが用いられ、忠実に再現する必要がある。

(現時点の行列構成案)

【中宮和子行列】 (85名)

構成例：旗持ち、布衣（烏帽子着、長刀持ち含む）、女中（打掛、桂）、武家諸大夫（馬副含む）、二条康通とその召具（内大臣、隨身、馬副、白丁、傘持ち）、中宮職、中宮隨身、牛飼童など。

【将軍家光行列】 (102名)

構成例：旗持ち、長刀持ち、烏帽子着、馬副、京都所司代（板倉重宗とその召具）、武家諸大夫、番頭、帯刀、御長刀持ち、牛飼童、将軍徳川家光、車副、権隨身、下臈隨身、舎人、御榻持ち、御階持ち、徳川一門とその召具など。

【後水尾天皇鳳輦行列】 (150名)

構成例：旗持ち、伶人、御倚子持ち、御草鞋箱持ち、御靴持ち、日給札持ち、切台盤持ち、燈台持ち、打敷持ち、隼人の兵士、公卿とその召具、鷹司教平とその召具（左大将、副舎人、傘持ち、退紅）、九條忠家とその召具（右大将、副舎人、傘持ち、退紅）、後水尾天皇（鳳輦のみ）、駕輿丁、左右近衛次将とその召具など。

(2) 参加者募集

時代行列は、一般参加者枠や協賛企業枠に加えて、旅行者枠、その他（地方参加、学生等）の複数のカテゴリーから構成。

一般参加枠：公募により決定（料金設定は調整中）。

協賛企業枠：協賛企業社員や関係者からの参加。原則無料（協賛金等を含む）。

旅行者枠：旅行代理店が企画する行列参加付きツアーの購入者。

地方参加枠：京都以外の地方関係者等（自治体職員、県人会等、料金は今後調整）。

参加資格：18歳以上（高校生以下は保護者同伴）。

健康で2km程度の行進に耐えられること。

事前の礼法研修、説明会等への参加が必須。 等

注意事項:天候による中止の可能性、衣装着用中の禁煙・禁酒、報道取材への協力、健康状態による参加制限。

(一般参加枠の先行エントリー)

時代行列の一般参加枠の本エントリーに先駆けて、無料の先行エントリーを開始。エントリーいただいた方には、優先的なイベント参加資格や「四百年祭」に関する最新情報をメルマガにてお届けしている。

時期	スケジュール	主な内容
令和7年12月6日～ 令和8年3月31日	先行エントリー募集	応募者には4月実施予定の「先行抽選」の参加資格を付与
令和8年1月～3月	イベント情報 随時発表	四百年祭に係る情報をメルマガ形式で配信
令和8年4月～	先行抽選 (参加者調整)	先行エントリーの応募者限定で、優先的に配役を決める抽選を実施
令和8年6月～	参加料振込	抽選当選者からの参加料の振込を開始
2026年8月頃～	(追加募集)	行列参加者の枠に余裕がある場合は、追加募集を適宜実施
2026年8月～11月	準備期間	礼法・作法研修、衣装合わせ等のイベント準備を実施
2026年12月6日	行列イベント実施	

【現在の先行エントリー状況 (令和8年2月20日時点)】

総エントリー者数: 1,250名 (個人情報、formrun (フォームラン) で管理)

性別: 男性 37.8% (466名)、女性 62.2% (768名)

年齢層: 50代が最多 (400名)、次いで60代 (391名)

地域: 京都府が最多 (49%)、次いで大阪府 (17.8%)、東京都 (5.8%)

認知経路: ウェブ記事・ニュースが最多 (33.1%)、次いで友人・知人から (26.4%)

応募理由: 「歴史に興味がある」「京都が好き」「祭りや時代行列に興味がある」が上位

期待する体験: 「衣装を着て参加」「歴史の再現に関わる」「文化を学ぶ体験」が上位

認知度: 「よく知っていた」13.1%、「少し知っていた」45.9%、「知らなかった」41%

メルマガ配信: 月1～2回程度 (2月4日、2月20日)

(3) 会場ゾーニングと配置計画

① 京都御苑（出発地点）

設置物：運営テント、救護テント、音響テント、出演者用テント、受付テント等
観覧席：「主催・関係者席」（9席×14ブロック＝126席）、「装束観覧席」（4席×33
ブロック＝132席）を想定し、最大230席規模で設置（今後調整）

スタンバイ動線：出発の建礼門前から東方向で行列スタンバイ（馬・牛の慣らし
スペースも要確保）

② 二条城（到着地点）

到着動線：行列は東大手門から入場し、唐門前のスペースへ移動。その後、到着
式（ステージイベント）に参加。

設置物：本部テント、関係者テント、運営テント、救護テント、音響テント、出演
者用テント、受付テント、舞楽台（4K×4K）

舞楽台：雅楽団体「雅亮会」が演奏予定（設置と高さについては要確認）。

今後の調整事項：早期閉城の可否、退場動線の検討と調整、馬・牛・牛車・鳳輦の
回収場所の確保、雅楽・笙の温めスペース（電源）等

(4) 衣裳の着付け・着用

① 着替え会場【調整中】

京都御苑付近に着用会場を設け、衣類・貴重品等の荷物をまとめて、二条城付近
の脱衣会場に運搬することを想定。

（着用会場）KBSホール、京都府公館、京極小学校等で調整中

（脱衣会場）待賢小学校、ANAクラウンホテル等で調整中

今後の調整事項：300名程度の参加者・スタッフが作業できるスペース、荷物保管
場所の確保、移動バスの駐車場の確保、運搬スケジュール等

② 参加者への留意事項

○ アンダーウェア：寒冷対策として、時代衣装に影響しない薄手のダウンベスト、
スパッツ、または膝丈の防寒ズボンを推奨。カイロを使用する場合は、低温やけ
ど防止のため帯を締めるウエスト部分は避ける。

○ 細身の参加者には、体形補正のためにフェイスタオルの持参を推奨。

○ 男性：襟元が大きく開いた長袖インナー。下半身はステテコやくるぶし丈のス
パッツ。上下ともに白、黒、肌色などの無地が望ましい。

女性：襟元が大きく開いた長袖肌着。下半身は黒または白のくるぶし丈スパッ
ツ、ステテコ、またはペチコート。腰紐を胸高に締めるため、締め付けの少ない下
着を推奨。

○ 化粧：カツラ着用者は油分の少ない化粧水のみ。時代行列のため、ピンクやベ
ージュ系の暖色系メイクを推奨。

- かつら着用者：前開きの服で来場すること。メイク落としと洗顔用タオルを持参。
- 眼鏡・装飾品：歩行に支障がない場合はメガネ着用を控える。コンタクトレンズの使用を推奨。指輪以外のアクセサリ（ピアス、ネックレスなど）は着用を控える。
- 貴重品・携帯電話：衣装にポケットがないため、首下げホルダー、巾着袋、または腹巻きやウエストポーチでの管理を推奨。衣装形状に影響するものは避ける。
- トイレ：着替え前に済ませ、水分摂取の調整を推奨。
- 行列中の行動：沿道に手を振らず粛々と歩く。カメラ・携帯電話の使用は禁止（マナーモードか電源オフ）。
- 体調不良時の対応：体調が悪くなった場合は、速やかに近くのスタッフに申し出る。
- 禁止事項：集合から解散までの間の禁煙。
- 取材対応：マスコミ・メディアからの取材が入る可能性があり、依頼された場合は協力する。

3 イベント警備計画

(1) 基本方針

- 行列通行帯：規制道路の「車両通行帯」を利用し、歩道は使用しない。
- 行列警備：先導車（1～2台）と最後尾案内車両（1台）を配置。
- 沿道の観覧客が行列通行帯へ進入しないよう警備員を配置し、注意喚起を徹底。
- 人流の多い警備重点ポイントでは、ロープやコーンバー設置を必要に応じて検討。
- 行列通過直前及び通過中の車両・歩行者の横断は基本的に不可。

(2) 交通規制計画

- 規制区間：周辺企業や生活者への影響を最小限に抑える範囲で実施。
- 事前告知：規制開始区間手前からの徹底した案内と交通の混乱を抑制する対策。
事前告知看板をイベント1～2週間前から設置することを検討。
- 規制時間：行列通過予定時刻の約30分前から規制を開始し、最後尾通過後速やかに規制を解除。
- 各ポジション規制準備：60分前から準備開始。

(3) 警察からの主な指摘

（京都府警本部）

- 京都地検や府警本部の車両出入りのため、下長者町通から新町通を南下するルートは推奨しない。

- 交通規制や横断歩道安全確認のための警備員に加え、雑踏対策（見物客整理）や、行列が歩く道路上の誘導員の配置も必要。

(上京警察署)

- 堀川通は交通量が非常に多い主要道路であり、日曜日の昼に規制をかける影響を詳細に洗い出し、対策を講じる必要がある。
- 片側車線で北行南行を作るのは推奨しない。
- 全市民に伝わる広報プランを組むこと。特に沿線住民への周知や回覧が必要。

(中京警察署)

- 堀川通で交通規制を行う場合は、西側三車線（北行）のみの使用を想定し、東側（南行）は通行可能とすること。

(4) 今後のスケジュール

2026年 9月 使用許可申請
10月 近隣広報準備
11月 近隣広報